

家庭科における子どもの実態

(自主性)

・実習に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。自分の願いを明確に具体的に持てるようになってきた。

(創造性)

・家庭生活に対して、興味、関心をもっている。自分の生活を見つめ、課題に気づき、家族を意識しながら創意工夫して解決する力が育ってきている。

(社会性)

・自分と仲間の課題解決方法の違いやよさを感じながら、よりよい方法を見つけようとする力が育ってきている。

学校の教育目標

心ゆたかに たくましく生きる子

よく考える頭 (創造性)

進んで働く手足 (自主性)

人もものも大切にできる心 (社会性)

家庭科において願う子どもの姿

(自主性)

・家庭生活に興味・関心を持ち、自分の生活を見つめ、その中にある問題や課題を進んで見出し、意欲的に解決しようとする子ども

(創造性)

・家族を意識した願いを持ち、自分の生活経験とかかわらせた解決方法を工夫して願いを実現することのできる子ども

(社会性)

・仲間と学び合う中で、知識や技能を生かす目のつけどころに着目して、多様な見方・考え方を取り入れ、高め合っていける子ども

研究主題

感動ある授業を求めて

～個に応じたきめ細かな指導で、学ぶ意欲、

学び方、学び合いを育てることを通して～

家庭科で目指す授業

自分の生活を見つめ、願いに向かって仲間とともに主体的に活動する中で、よりよい家庭生活をめざして実践する喜びが味わえる授業

具体的な手だて

学びたいという意欲(自主性)を育てるために	その子なりの学び方(創造性)を育てるために	仲間との学び合い(社会性)を育てるために
<p>一人一人の子どもが「自分でやってみたい」「やれそうだ」と思えるようにする。</p>	<p>一人一人の子どもが「こんな工夫ができた」「こつを見つけた」と思えるようにする。</p>	<p>一人一人の子どもが「なるほど」「自分も次の時間や家でやってみたい」と思えるようにする。</p>
<p>【研究内容1】 一人一人の子どもが、目的意識を持ち続けることができる、評価の在り方。</p>	<p>【研究内容2】 一人一人の子どもが、自分なりの方法で課題を解決することができる、個に応じた指導・援助の在り方。</p>	<p>【研究内容3】 一人一人の子どもが、自分の見方や考え方、技能を高めることができる、学習集団の在り方。</p>
<p>○一人一人の子どもの意欲につながる自己評価を具体化する。 ○一人一人の子どもの特性をつかむ教師の評価を具体化する。</p> <p>生活見つめによる事前の意識調査 ・アンケートなどによって子どもの先行経験や知識をつかむ。 ・事前に家庭や地域の様子について取材や調査を行い結果を交流する。</p> <p>一人一人の願いやめあての明確化 自分の願いやめざす姿を掲示し、達成への意欲へつなげる。</p> <p>1時間の技能の高まりや活動を振り返る自己評価の位置づけ ・1時間の終末に、1時間の技能の高まりや活動について自己評価できるようにする。 ・終末で、学習カードを用いたり、グループや全体で話題を焦点化して話し合ったりする。</p>	<p>○一人一人の子どもの特性に応じた指導・援助を具体化する。 ○一人一人の子どものつまずきに応じた指導・援助を具体化する。</p> <p>技術向上のための視点の明確化 技術向上のためのポイントを、子どもの言葉を用いて、分かりやすく短い言葉や師範、掲示で明確にしておく。</p> <p>課題追究に合う学習形態の工夫 明確化された自分の願いや目的に応じた小集団で課題追究できるようにする。</p> <p>子どものつまずきに応じた指導・援助 ・子どものつまずきを予想し、準備した手だてを用いて解決へと導く。 ・学習内容や課題解決の歩みに応じ、必要な知識や技術を自分から進んで確認したり、獲得したりできる環境設定を充実する。</p>	<p>○一人一人の子どもの目的に応じた小集団づくりを具体化する。 ○一人一人の子どもの見方や考え方、技能が高まる学び合いの方法を具体化する。</p> <p>小集団で仲間の作品や見方・考え方のよさを学び合う場の設定 ・ネームプレートの活用 ・学んだ内容を授業や生活の中で活用した姿のよさを繰り返し語る。</p> <p>家庭での実践を交流する場の位置づけ ・学んだ内容を授業や生活の中で実践したことを交流できる場を位置づけ、どのように実践したらよいかの目のつけどころに気付けるようにする。</p>
<p>家庭科の授業において大切にしていること</p>		
<p>自らの生活に密着した必然性のある学習課題の設定 ・願いや目的意識を大切にする。 ・師範や参考作品によって意欲を高める。 ・テーマ性のある題材構成を工夫することで、学ぶ意欲を喚起し、意識の連続を図る。</p>	<p>学び方を学ぶ場の設定 ・何度も繰り返して楽しみながら基礎的・基本的な技術や知識を獲得できる工夫をする。 ・作業時間を確保できるように、グループでの一人一役を生かしたスムーズな活動や、話し合いの効率化を進める。</p>	<p>板書の工夫 ・課題解決への視点や、仲間の考えが確認できるように分かりやすい板書を工夫する。</p>

